



**Blancpain GT World Challenge Asia 2019**

Rd.3&4 Chang International Circuit / THAILAND

10-12.May.2019

Photo by HubAuto Corsa

## 【HubAuto Corsa チーム体制】

チーム : HubAuto Corsa

マシン : Ferrari 488 GT3

カー No. : 27

クラス : GT3 Silver

チーム代表 : モーリス・チェン (Morris Chen)

Aドライバー : 坂本 祐也 (Yuya Sakamoto)

Bドライバー : アンドレ・ハイムガートナー (Andre Heimgartner)



## Qualifying Rd.3 / 8th (2:05.479 Y.Sakamoto) Rd.4 / 17th (2:04.994 A.Heimgartner)

金曜のフリープラクティスは45分間の走行が2本あり、1本目は2名のドライバーとも初めての走行となるチャン・インターナショナル・サーキットの完熟に費やします。途中、右フロントタイヤのトラブルにより両ドライバーとも8周程度の走行で終了となってしまいました。その後雨が降り始め、2本目の走行はウェット路面となってしまいましたが、Ferrari488GT3のウェット性能の高さを発揮し、2番手タイムを記録。翌日の予選でのウェットコンディションを期待していましたが、結局雨は上がりドライコンディションで予選に臨む事に。ドライでの走行時間が少なかった事もあり、マシンのセットアップ、ドライバーの走り込みも十分では無く、第3戦の予選は坂本アタックで8位、第4戦の予選は今回から新しいチームメイトとなったアンドレが17位と苦戦を強いられる形になってしまいました。予選でのマシンバランス、アタック中のドライビングをフィードバックし、決勝に向けて巻き返しを図ります。



### RACE Rd.3 / 4th (Silver Class 4th)

土曜、第3戦決勝は予選をアタックした坂本がスタートドライバー。雨のフリー走行ではトップと1/1000秒差の2位だった事もあり、予報では降水確率も高かったためウェットレースを期待しましたが、結局雨は降らず。曇り空ではありましたが、タイらしい蒸し暑い気候の下、スタートが切られます。第1コーナーは右に直角に曲がり、その後長いストレートが待ち構えます。ローリングから、グリーンシグナルで一斉にスタートし、イン側は1コーナー手前のブレーキで後方が詰まる予想をしていたので、自分はスタート直後、アウト側にラインを変え、1コーナーをアウトから被せて抜けていきます。それが功を奏し、ストレートではスピードが伸び、2台をかわし6位へ浮上。その後、混戦の位置取りで2台にかわされ、1台をパスし、7位でオープニングラップに戻ってきます。その後、前を行く Audi R8 に抑えこまれ、途中オーバーテイクをしかけますが、パスするまでには至らず。逆に後続につけていた別の Audi R8 にパスされ8位へ。ペースもなかなか上げる事が出来ず、早めのタイミングでピットイン。タイヤを New へ交換、そしてドライバーチェンジし、後半ステントをアンドレに託します。ピットアウト後は予選のアタックラップに近いペースでプッシュします。そうする事により、他のマシンがピットアウトしてきた時に逆転出来る可能性が大きいからです。アンドレは1分35秒台前半～後半の好タイムを連発しながら、6位に順位を上げます。その後、自力で2台をオーバーテイクし4位に浮上。前を行く3位のマシンを猛追しますが、一步届かず。4位でチェッカーを受けました。

レース中のマシンバランス、ドライビングを、データ、車載映像で振り返り、第4戦に向けて、マシンセットアップとドライビング修正を施します。このサーキットはアップダウンが小さく、フラットに近いレイアウトに加え、ゼブラ（縁石）が低い為、いかにトラックリミットギリギリまでコース幅を目一杯使って攻め込めるかがタイム短縮のカギになってきます。国内レースではトラックリミットをかなり厳しく監視するため、ここまで果敢にゼブラをカットした走法はあまり経験がないので、ここに来てようやく慣れてきたというのが実感でした。



#### RACE Rd.4 /2nd (Silver Class 1st)

日曜、第4戦決勝は予選をアタックしたアンドレがスタートドライバーを担当。前日と同様、ドライコンディションでのスタート。日曜の決勝は正午近くに行われるため、気温、路面温度ともに上昇し、暑さとの戦いにもなります。アンドレはオープニングラップで3つ順位を上げ、14番手にポジションアップ。その後も2台をかわし12位へ。さらに前方のマシンに襲いかかりますが、なかなか捕らえる事が出来ずポジションをキープしながら周回を重ねます。スタートから25分が経過しピットウィンドウオープン開始に真っ先にピットに飛び込み、タイヤをNewに交換。ドライバーを坂本にチェンジして再びコースに復帰します。ピットからは「プッシュ、プッシュ」の無線が入り、Newタイヤの強みを生かしてアウトラップからフルプッシュします。結果、後からピットに入ったライバル勢の前に立つ事が出来、8位までポジションアップ。その後、上位陣の接触による脱落や、マシントラブルでの脱落により気が付けば4位へ。前方3位を走るマシンも見てきたところでセーフティカーがコースイン。前後の差は無くなりました。3週のSCランの後、再びレース再開。3位を走るAudi R8が周回遅れのマシンに手こずっている間に、コーナー立ち上がりで並びかけ、オーバーテイクに成功。3位に上がります。残り3周。後続の追い上げを何とか封じ、そのまま3位でチェッカー。開幕戦以来の表彰台獲得となりました。表彰式後、2位のマシンが規定ウェイト不足で失格となり、正式結果は繰り上がりの2位。今回は運も味方してくれたレースとなりました。

予選で一発の速さにまだ課題が残りますが、決勝はエンジニアのマシンセットアップと戦略のお陰でこのようなりザルトに繋がっています。このチーム力の高さを誇りに思うと共に、次戦は日本ラウンド、鈴鹿で、優勝目指してベストを尽くします。引き続き、HubAuto Corsa 坂本祐也のご支援、ご指導のほどをよろしくお願いいたします。

